



やおつ再生セミナー「おいしい空き家のはなし」を開催

町防災センターで、八百津町地域おこし協力隊と町が連携して空き家活用によるやおつ再生セミナー「おいしい空き家のはなし」を開催しました。講師には白川村地域おこし協力隊として空き家再生事業に取り組む柴原孝治氏と、古民家の再生活用を中心とした地域づくりを展開する一般社団法人ノオトから星野新治氏を迎え、町内外から約50名の参加者が空き家の可能性や魅力、その活用手法について学びました。

また、旧八百津発電所資料館と本町通りの町内散策も行われ、改めて産業遺産の魅力や八百津ならではの町並みに触れる機会となり、今後の展開が期待されます。

美濃加茂市から参加した男性は、「空き家を負の遺産とさせず、地域の財産として活かす方法はたくさんあるとわかった」と話していました。



▲熱心に講義を受ける参加者のみなさん



八百津町がん検診受診率向上に関する連携協定書調印式

町は、日本生命保険相互会社岐阜支社、めぐみの農業協同組合それぞれとの間で、がん検診の受診率を向上させ、がん予防、早期発見、早期治療を目的として、「がん検診受診率向上に関する連携協定」を締結し、調印式を行いました。

この協定は、それぞれの職員が顧客を訪問する際、がん検診の普及啓発のリーフレットを配布するなどして、がん検診の積極的な受診を促すものです。

町のがん検診受診率は、2014年度実績で胃がん9.8%、大腸がん21.7%、肺がん13%、乳がん12.2%、子宮がん9.2%で、2016年度までに受診率を50%以上とする国の目標にはほど遠い状況にあります。

町長は「この協定によって、がん検診への関心が高まり、がん予防に大変有効なものとして期待しています」と述べました。また、日本生命の中島啓支社長とめぐみの農協の馬場嘉紀八百津支店長は、多くの方にがん検診を受診していただけるよう協力したい」と話しました。



▲町長と堅い握手を交わす馬場支店長(左)と中島支社長(右)



八百津町見守りネットワーク事業に関する協定書調印式

見守りネットワーク事業は、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしができるように行政と協力団体が地域と連携して、日常生活における異常事態から事故を防止し、地域全体で要援護者を見守る体制を確立すること。また、日常の通常業務や活動の中で、虐待および徘徊等の訪問先の生活の異変に気づき、安否確認を必要とする方または支援を必要とする方を発見した場合に、本町への通報に協力する協定です。

協定書調印事業主代表として、生活協同組合コープぎふの川崎理事長らは「八百津町にお住まいのみなさまがいつまでも安心して暮らしができるように少しでもお役立ちできれば嬉しいです」と言葉を述べ、町長は「力添えをいただくことは大変心強くありがたいことです」と話しました。



▲協定を取り交わす町長と川崎理事長(左)